

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:24-26.

化学療法を継続している消化器がん患者に看護師が行っている看護介入
とその背景にある価値観

成田 はづき

化学療法を継続している消化器がん患者に看護師が行っている看護介入とその背景にある価値観

旭川医科大学病院 6階西ナーステーション ○成田はづき

キーワード：化学療法、看護師、看護介入、価値観

【はじめに】化学療法を行っている患者は不安を抱えながらも治療に取り組んでいるが、患者の治療継続に関する要因や目標などを聞き出すタイミングを失い、より個別性のある看護を提供できていないと感じている。

【目的】消化器がん患者に関わる看護師の看護介入とその背景にある価値観を明らかにし、看護介入や患者への意思決定支援の示唆を得る。

【方法】独自のインタビューガイドを作成、半構成的面接を行い、コードを抽出した。カテゴリー化し、分析した。

【倫理的配慮】A病院倫理委員会の承認を得て行った。対象者の自由意思による同意を文書で取得した。

【結果】看護師の価値観と捉えられる《生活者としての患者の治療の意味》、《代弁者でありたい》の2つのカテゴリー、6つのサブカテゴリー、13のコード、看護介入は12個の支援内容が抽出された。

【考察】《生活者としての患者の治療の意味》看護師は治療後の患者の状態から治療の意味や必要性を考える経験をしていた。また患者の生活の中に治療があることを意識する経験から患者の本来あるべき姿を考え患者の生活に価値を見出し、その中に治療がある事を意識している。治療の意味や必要性を考える経験を踏まえ、患者が本当に希望する治療を選択できるように情報収集し意思決定支援を行っていることが考えられる。《代弁者でありたい》看護師は治療と患者の思いの間で葛藤を感じながらも、患者の思いを尊重し関わっている。上野らは、「化学療法を受ける患者は精神的な変化は常にあり、余命に対する希望と不安の中で葛藤しながら治療しており、患者の思いに寄り添いながら支援していく必要性」を述べている。このように患者も葛藤しながら治療に臨んでおり、意思決定の場面では患者の気持ちの波を理解した上で思いを引き出し、その時々での患者の意志を尊重する関わりが必要である。

【結論】1看護師は《生活者としての患者の治療の意味》《患者の代弁者でありたい》という価値観を持ち、化学療法を継続している消化器がん患者の意思決定に関わっていた。2看護師は自身の経験から価値観を形成し、患者の受容過程に沿い意思決定支援を行っていた。3患者の生活から患者の本来の姿を見出し、患者が希望する治療を選択できるよう、気持ちの葛藤を理解し、意思決定支援を行う必要がある。

化学療法を継続している消化器がん患者に 看護師が行っている看護介入と その背景にある価値観

6階西ナーステーション
成田 はづき

はじめに

- ・がん化学療法を行っている患者は多く、
外来へ移行していく患者は多い
- ・がん患者は治療選択を迫られる場面が多く、
看護師のサポートは重要



- ・短い入院期間で患者の治療継続に関する要
因や今後の目標や生きがいを聞き出すこと
が困難に感じている

研究目的

消化器がん患者に関わる看護師の看護介
入とその背景にある価値観を明らかにし、
看護介入や患者への意思決定支援の示唆
を得る

研究方法

研究期間

本学倫理委員会承認後平成29年9月11日～平成29年12月

研究対象者

研究対象者は以下の条件に当てはまる看護師

4名を選定し、インタビューを行った。

- 1) A病院消化器内科に勤務している看護師
- 2) 入院を繰り返しているがん患者に携わる看護師
- 3) 消化器がん患者の看護実践経験を5年以上有し、
研究参加の同意を得られた看護師

○分析方法

独自のインタビューガイドを作成し、半構成的面接を行った。
インタビューから逐語録を作成し、意味ある文節に区切った
コードを抽出した。そのコードをカテゴリー化し、質的に分
析を行った。

○倫理的配慮

本学倫理委員会の承認を得て行った。
対象者に対して、倫理委員会で承認の得られた同意説明
文書を用いて、文書および口頭による十分な説明を行い、
対象者の自由意思による同意を文書で取得した。また同意
後も随時同意の撤回ができ、撤回による不利益を受けない
ものとした。調査により得られたデータを取扱う際は、対象
者の個人情報保護に十分配慮し、本研究を行うこととした。

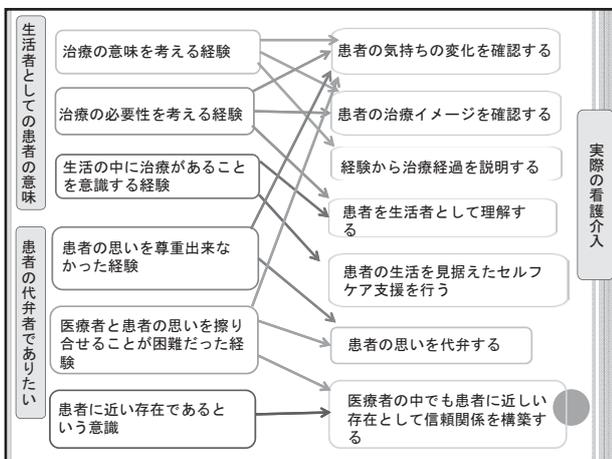
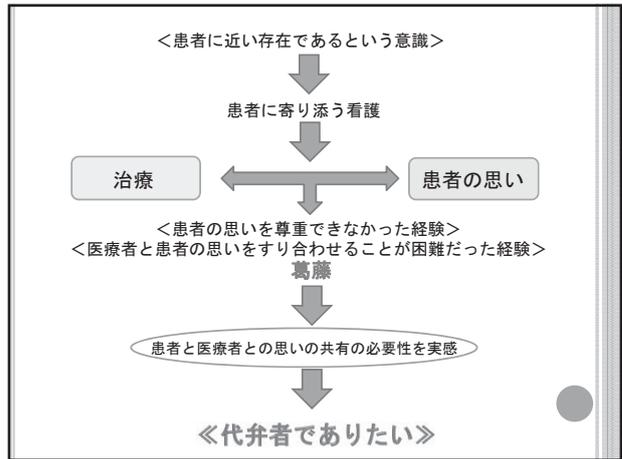
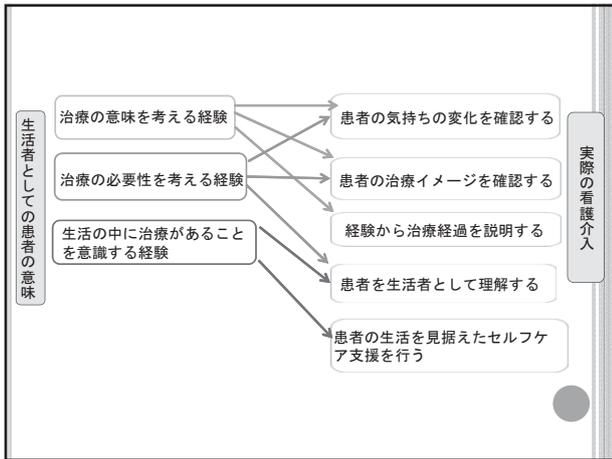
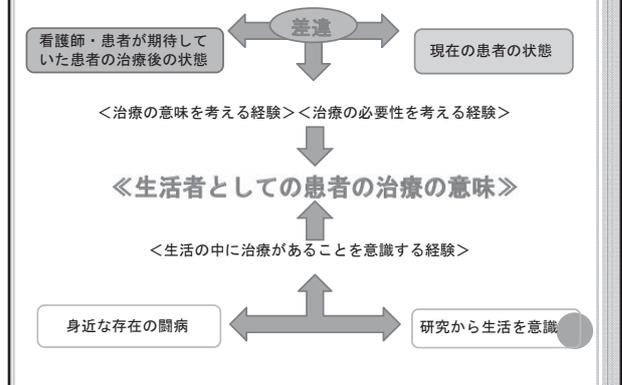
結果：看護師の価値観

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
生活者としての患 者の治療の意味	治療の意味を考える経験。	もともとADLが自立していた患者が治療の副作用で寝たきりとなっ たことから患者にとっての治療の意味を考えるようになった。
	治療の必要性を考える経験。	治療後にADLが低下している患者をみると「本当にこの治療が必要 であったのか」と、もどかしさを感じる。 治療中に患者に「本当にこれでよかったのか」と問われ、患者の イメージしていた治療ではなかったのだと気が付いた。
	生活の中に治療があることを意 識する経験。	生活と治療に折り合いをつけながら治療を継続していくことを支 援していくことも大切だと思ふ。 自分の祖父が仕事をしながらも化学療法を継続しており、患者で あると同時に生活者であることを意識した。 TACEの患者の研究を行ったときに患者の治療に対する意識の背景 には生活があることがわかり、患者の生活や治療ごとに変化して いく患者の目標を意識するようになった。
患者の代弁者であ りたい	患者の思いを尊重出来なかった 経験。	治療をやめたいといっている患者に対して何もできなかったが、 患者の思いを確認できたらもう少しちゃんと関わることができた と思ふ。 本人に未告知の場合には、選択の幅が狭まることにジレンマを感 ずる。
	医療者と患者の思いを擦り合せ ることが困難だった経験。	みんなが同じ方向を向く医療が理想だが実際は難しいから、医 師・患者の思いを押し止めてすり合わせて治療に向き合っていけ るようになりたい。 化学療法を行う患者は入院を繰り返しており、顔合わせる機 会も多い
	患者に近い存在であるという意 識。	患者に一番近い存在は看護師かもしれないと意識する。 医療者でありながら話を聞いてくれる存在であるということ意識 している。 患者の気持ちや患者家族や医療者に伝えている存在でありたい。 患者を取り巻く環境の中を理解するうえで力になれる存在であり たい。

看護師が実際に行っている看護介入

実際にしている看護介入	
患者の気持ちの変化を確認する。	治療開始時には患者の思いを聞くことができるようにする。治療に対する患者の思いをその都度確認する。
患者の治療イメージを確認する。	治療に対する患者のイメージを事前に確認する。
患者を生活者として理解する。	患者の生活を情報収集する。患者のありのままの生活を尊重し、治療との折り合いをつけることができるように支援する。
経験から治療経過を説明する。	自分の経験を踏まえて治療経過を確認する。治療の流れや副作用を具体的に説明し、わかりやすく情報提供する。
患者の生活を見据えたセルフケア支援を行う。	患者のできる部分や生活を意識して、セルフケアを指導する。
医療者の中でも患者に近い存在として信頼関係を構築する。	信頼関係を構築する。患者の気持ちに寄り添う。意思決定の場面では患者のペースを重んじる。
患者の思いを代弁する。	医師との話し合いの場を提供する。

考察



結論

- 看護師は《生活者としての患者の治療の意味》、《患者の代弁者でありたい》という価値観を持ち、化学療法を継続している消化器がん患者の意思決定に関わっていた。
- 看護師は自身の経験などから価値観を形成し、がん患者のその時々段階に沿って意思決定支援を行っていた。
- 患者の生活から本来の姿を見出し、思いを共有し患者が本当に希望している治療を選択できるよう、気持ちの葛藤を理解し、意思決定支援を行っていく必要がある。